

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

海田バイオマスパワー株式会社 海田発電所

(2) 事業所の所在地

広島県安芸郡海田町明神町2番118号

(3) 業種

3311 発電業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

海田発電所の営業運転を開始した令和3（2021）年度を基準年度とし、令和6（2024）年度から令和9（2027）年度までの4年間を計画年度とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本的な考え方

海田バイオマスパワー株式会社（海田発電所）は固定価格買取制度（FIT）を基本とした木質バイオマス・石炭混焼による発電事業を営んでいる。発電用の燃料には広島県の林地残材等の未利用木材や海外の木質系バイオマス等を積極的に活用し、バイオマス混焼比率80%を目指して運転を実施している。今後もバイオマス燃料を安定して調達することにより、バイオマス混焼比率80%の達成を維持していくとともに省エネルギー化を推進して、温室効果ガスの排出抑制に努めていく。

2. 方針

- ①安定した燃料調達・設備保全の充実により、バイオマス混焼比率の維持、向上を図る。
（化石燃料の低減）
- ②省資源、省エネルギーを推進し、環境負荷の低減に努める。
- ③環境保全活動を充実させ、地域と地球環境改善に貢献する。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和 3 （ 2021 ） 年度	令和 5 （ 2023 ） 年度
二酸化炭素	14,759	13,917

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和 3 （ 2021 ） 年度	令和 5 （ 2023 ） 年度
二酸化炭素	なし	なし

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和 3 （ 2021 ） 年度	令和 5 （ 2023 ） 年度
メタン	7,124	26
一酸化二窒素	143,450	24,037
その他 温室効果 ガス （ HFC PFC SF ₆ NF ₃ ）	8	10

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和3（2021）年度)	削減目標		目標年度 (令和9（2027）年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	14,759	17.4	2,566	12,193
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン	7,124	99.7	7,099	25
一酸化二窒素	143,450	85.5	122,638	20,812
その他 温室効果ガス	8	0.0	0	10
温室効果ガス 実排出量総計	165,341	80.0	132,303	33,040
温室効果ガス みなし排出量		—		
目標設定の考え方	・基準年度については、営業運転を開始した2021年度としている。 ・2021年度のバイオマス混焼比率は76.6%であったため、運転開始時の 目標値である混焼比率80%を達成することを目標とする。			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)、原単位置量(kg等)、削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成()年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和()年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	—	—			—	—	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	バイオマス混焼比率の維持	80%以上を達成する	・ バイオマス燃料を安定調達する
2	電気使用量の削減	所内電力使用量を削減する	・ 高性能インバータ機器を取付 ・ 会議室等の不使用場所の照明消灯 ・ クールビズ等の取組を活用した適切な空調温度の設定
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

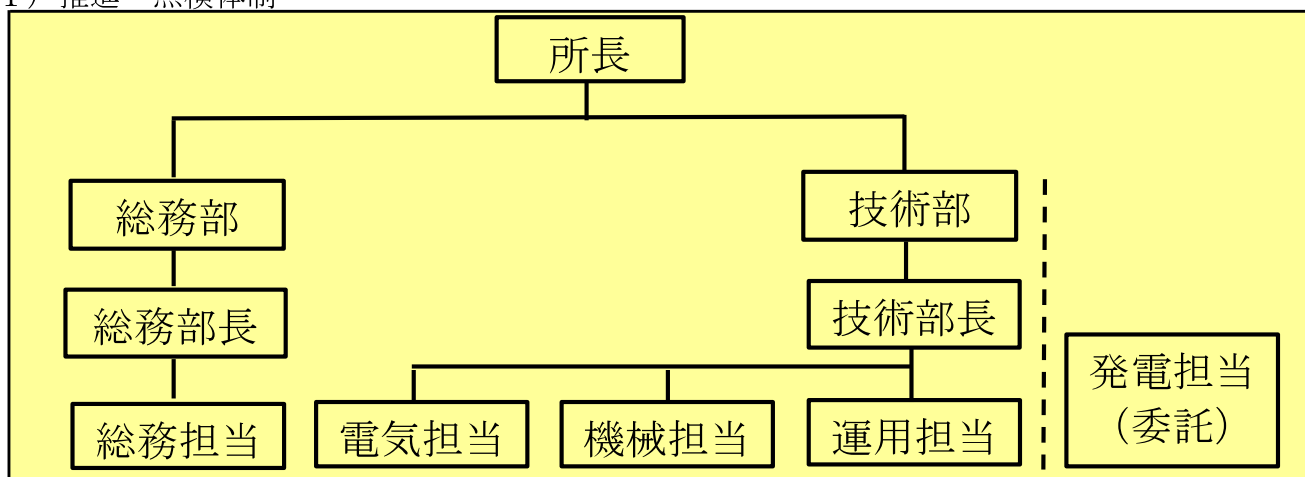
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

技術部 運用担当を管理主管として、温室効果ガス削減量の把握及び問題点の把握を毎年度実施する。問題点については所内会議等で共有し、定期的な評価、見直しを実施して、継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

事務所に備え付け、閲覧可能にする。